

タマネギべと病の防除の徹底について

岡山県病害虫防除所による 4 月 7 日の巡回調査では、タマネギべと病の発生圃場率が 55.6%で、過去 7 年間で 2 番目に高くなっており、一部では多発生圃場がみられます。広島地方气象台による向こう 1 か月の予報（4 月 9 日発表）によると、気温は低く、降水量は平年並か多いとされており、多雨は本病を助長します。圃場をよく観察し、防除対策に万全を期してください。

なお、農薬の使用に当たっては、タマネギの収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに周辺農作物等への農薬飛散防止対策をとってください。

（防除上の参考事項）

- （1）本病は、気温 15℃前後（4 月～5 月上旬頃）で、雨が多いと多発生しやすくなる。
- （2）発病を確認した圃場では葉によく付着するように薬剤散布を行う。薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける（表 1 参照）。
- （3）べと病の類似病害に黒点葉枯病、黒斑病がある。べと病は、多湿時には病斑上に白色または灰白色の分生胞子を形成する（図 1）。これに対し、黒点葉枯病は病勢が進展すると病斑上に小黒粒点を密生し（図 2）、黒斑病は病斑上にすすの様なかびをつくり、病斑の上下が長く帯状に淡褐色に変色するので区別できる。

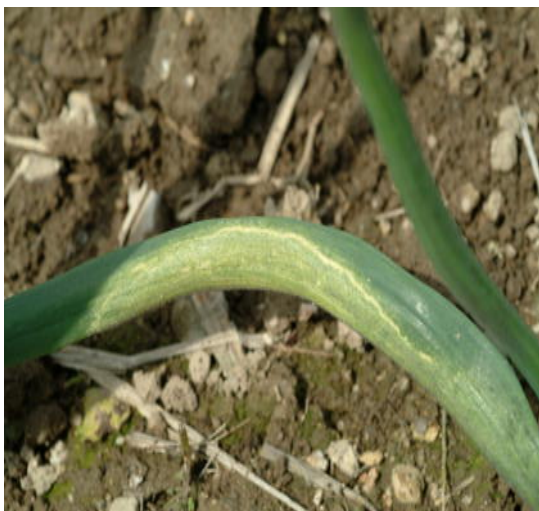


図 1 タマネギべと病の病徴



図 2 タマネギ黒点葉枯病の病徴

表1 タマネギべと病の防除薬剤

系統名	薬剤名	治療効果	希釈倍数	使用基準		成分名
				時期	回数	
フェニルアマイド系剤を含む	☆ リドミルMZ水和剤	●	500～750倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシル+マンゼブ
	☆ リドミル銅水和剤	●	400～600倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシル+銅
	☆ フォリオブラボ顆粒水和剤	●	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシル+TPN
メトキシアクリレート系剤を含む	★ アミスター20フロアブル	●	2000倍	収穫前日まで	4回以内	アゾキシストロビン
	★ アミスターオプティフロアブル	●	1000倍	収穫7日前まで	4回以内	アゾキシストロビン+TPN
シアノアセトアミド系剤を含む	★ ホライズンドライフロアブル	●	2500倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル+ファモキサドン
	カーゼートPZ水和剤	●	1000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル+マンゼブ
	ベトファイター顆粒水和剤	●	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル+ベンチアバリカルブイソプロピル
モルフォライド系剤を含む	フェスティバルM水和剤		750～1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ+マンゼブ
	フェスティバルC水和剤		600～800倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ+銅
有機銅剤	ヨネポン水和剤		500倍	収穫7日前まで	5回以内	ノニルフェノールスルホン酸銅
有機硫黄剤	ジマンダイセン水和剤		400～600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ
	ペンコゼブ水和剤		400～600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ
有機塩素剤	ダコニール1000		1000倍	収穫7日前まで	6回以内	TPN
その他	ランマンフロアブル		2000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド
	ドーシャスフロアブル		1000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド+TPN
	フロンサイド水和剤		1000～2000倍	収穫7日前まで	5回以内	フルアジナム
	プロポーズ顆粒水和剤		1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブイソプロピル水和剤+TPN
	レーバスフロアブル		2000倍	収穫前日まで	2回以内	マンジプロバミド

注1) ☆印及び★印の剤は、連用すると薬剤感受性が低下する恐れがあるので、耐性菌を出現させないために同じ印の薬剤の連用を避ける。
ホライズンドライフロアブルの成分ファモキサドンとメトキシアクリレート系剤は、系統が異なるが相互に交差耐性を示す可能性があるため、これらの剤の連用を避ける。

注2) 表中の●印は、タマネギべと病に対して、治療効果のある薬剤を示す。